

榎

KaYa

vol.04

亜細亜大学
国際関係学部編集



国際関係・多文化
フォトジャーナル

KaYa
04
亜細亜大学
国際関係学部

ISSN 2188-3122

Asia University Faculty of International Relations

04 ESSAY **فتح يا سمير! (開けゴマ!)**
アラビア語 千夜何夜物語(下)
新妻 仁一

国際関係・多文化フォトジャーナル
Faculty of International Relations, Asia University

12 ESSAY *Economics of International Trade and Logistics*
国際貿易と
ロジスティクスの経済学
新井 敬夫

22 **銅像よもやま話4**
マッチョな銅像
高山 陽子

29 **ゼミナール紹介**
多文化コミュニケーション学科
「オリエンテーションゼミII」
「アクションを大切に」
大塚 直樹

34 **フィールドワーク**
2016年
夏季ベトナム フィールドワーク
大塚 直樹

44 **フィールドワーク**
体験で学ぶ地球環境論
外来生物駆除 於井の頭池
中野 達司

54 **学部行事報告**
多文化コミュニケーション学科
アジア祭参加企画一のぞきみ!多文化きっちん
高山 陽子

Contents



榎 かや とは



亜細亜大学内のゆうちょ銀行ATMの裏側に記念樹があります。それが榎の木です。この記念樹は、1941（昭和16）年の本学創立当初に植樹されました。先達に敬意を表わしつつ、半世紀以上にわたり本学の歩みを見守ってきた榎とともにグローバル化時代に挑戦してゆこうという国際関係学部の思いが本ジャーナル名の由来です。



亜細亜大学 国際関係学部
〒180-8629 東京都武蔵野市境5-24-10

学部についての詳細は
<http://www.asia-u.ac.jp/academics/international/>

『榎』はPDFデータでも閲覧いただけます。
※亜細亜大学学術リポジトリから入手できます。

どちらかといえば思わない、思わないという項目も設けたが、どちらも回答は、ゼロであった。また学科履修生に二名の未回答者がいたが、この質問を含め裏面の質問すべてに回答していないため、おそらく裏面を確認することなしに提出したと思われる。この数

履修生	思う	どちらかといえば思う
学科履修生	3	1
全学共通履修生	5	3

質問・初級を終えて、アラビア語と中東についてももっと勉強してみたいと思いますか。

まず二〇一五年度地域言語初級を終えた学科履修生九名からアンケートに答えてくれた六名と全学共通科目の履修生九名（法学部五名、国際関係学部国際関係学科四名）の中から同様にアンケートに答えてくれた八名の印象を聞いてみよう。

履修生	回答
学科履修生	基本会話を学べたこと(2)、歌を覚えたこと、アラビア文字が読めるようになったこと
全学共通履修生	アラビア語圏の人々の世界観と文化を学べたこと(2)、アラビア語の仕組みを学べたことと単語の語末の発音でアラビア語が変わることを知ったこと、アラビア語自体を学べたこと、単語を覚えたこと

質問・前後期を通じてこのことが学べて、あるいは知ってよかったと思うことは何ですか

字から初級の段階で、あらかじめさせない、学習を継続する意欲を持たせる、という導入時の目標については、全学共通履修生の「思う」五人の中に一名「特に思う」という回答もあったことも踏まえ、それなりの成果をあげたということができるだろう。では履修生の学習意欲を高めた要因は何であろうか。次の質問に対する回答から読み解いてみよう。

二〇一五年度の学科履修生に対する授業については、基本会話にかなりの時間を割いて実施した。日本人教員が、ネイティブ教員とは違った視点から挨拶をはじめとする様々なアラブ人との対面状況を紹介することによって、アラブ社会独特の発想法に触れさせることが主たる目的であった。日本においてアラブ人と直接言葉を交わす機会は、非常に限られているという難しさはあるものの、アメリカ留学を控えた履修生には、留学先で出会う可能性のあるアラブ人との対面場面を想定させることによって、より現実味のある会話を意識させた。

また歌については、インターネットやYouTubeを大いに活用した。今回覚えさせた「私たち家族」や「お母さんの歌」は、分かり易く、また楽しさあふれる映像とともに、短いフレーズや単語の繰り返しによってアラビア語の親族名称が、自然に音声として記

アラビア語 千夜何夜物語(下)

新妻仁一

アラビア語千夜何夜物語も最終回を迎えた。多文化コミュニケーション学科におけるアラビア語履修者の学習意欲を高め、彼らが初級、中級、上級へと無理なくステップアップしていくことができる環境を整えるためには何が必要であろうか。これが最終回のテーマとなった。



履修生自作教材。中央のライオンは、アラビア語のアルファベットの最初の文字、アリアで始まる単語



数字の教材を作成中。右は「7」。左はアラビア語で「1(ワーヒド)」と書いたところ

り、一番集中できた授業かもしれないという声が上がったのは興味深かった。本学の留学生別科で使われている様々な道具にヒントを得た試みであったが、こうした試みは、今後その使用方法の開発も含め検討し、年間授業計画の中に取り入れていくことも意味あることのように感じた。



自作教材を使った単語遊びゲーム

学科履修生と全学共通履修生の初級の授業内容に違いがあるとすれば、学科履修生に対しては、三年間の継続履修を前提とした読む、書く、聞く、話すという総合的言語力を養うための入門段階であり、ネイティブ教員の授業参加を通じて履修生が自ら使える言語を発見し、異文化理解に対する問題意識を高めることを

目標としているのに対して、全学共通履修生に対しては、その多くが一年間の学習を選択することを踏まえ、言語自体というよりも言語の周辺、社会や文化をも含めた人間の表現活動の諸様相に対する問題意識を高めることに重点を置いていることであろう。全学共通履修生の回答の中にアラビア語圏の人々の世界観と文化を学べたこと、という回答が複数あったことはその成果の表れと言ってよいであろう。同様にアラビア語の仕組みや語末の発音変化について言及した回答は、どちらもアラビア語の文法を学んだことに対する積極的評価とみなすことができる。学科履修生の回答にこうした文法事項の学習に対する具体的な回答がなかったことを考えると大変興味深い結果である。その理由は、いくつか考えられるが、その最大のものは、全学共通履修生の授業が日本人教員の担当する短期集中型の授業となっていることであろう。

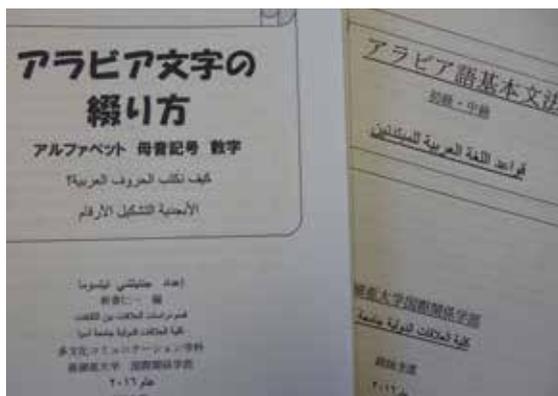
憶に残るものであった。これまで授業で紹介できる歌といえば、まずアラビア語の歌詞がきちんと紹介されていて日本で入手が可能なもの、それは必然的にアラブ世界を代表する歌手たちが歌う有名な作品に限られ、その理解のためには言語能力の面でも、アラブ文化への関心度の面からもそれなりの高さを要求されるも



アラブ人歌手のCD。中央がオリエントの巨星と呼ばれ、没後40年を経た現在でもアラブ歌謡界に不動の地位を占めるウム・カルスーム

のであった。さらに問題なのは、こうした有名な歌の長さであった。アラブ人は、じっくり歌を聴くことに慣れており、二〇〇〜三〇〇分は短い方で、一時間近く、いやそれ以上に及んでようやく歌を聞いた気持ちになる人が多い。おそらくこれは、詩の朗読を聞く文化が根底にあるためであろう。これまでぜひ扱ってみたいという歌があったとしても、その長さの故にあきらめざるをえないことがしばしばあった。インターネットとYouTubeは、この問題をみごとに解決した。教員は、ネット上で入門者から上級者まで、履修生の能力や関心に応じて活用できる適度な長さの歌を見つけ出すことができるようになった。

アラビア文字については、昨年まで使用してきたテキストを大幅に改定し、これまで短い説明にとどめておいた手書きのアラビア文字に関する練習を充実させた『アラビア文字の綴り方、アルファベット、母音記号、数字』を作成した。ナクシュバンディー先生には、一般的に



2016年度用『アラビア文字の綴り方』と『アラビア語基本文法 初級・中級』

使用される手書きのアラビア文字を使って、履修生へのメッセージを書いてもらった。さらに今年度(二〇一六年度)は、新たな試みとして履修生自身による教材作成を授業に取り入れてみた。アラビア文字のアルファベットと、自分たちが選んだ単語の絵を組み合わせた粘土細工である。授業自体は大いに盛り上が



アジア祭、今年のテーマは千夜一夜物語の食事再現



アラベスクで飾った2016年度アジア祭の中東コーナー



千夜一夜物語第27夜、28夜に出てくるジャルパージャをアラビア語中級履修生が再現。意外と甘かった



アジア祭で展示したアラブ人のソウルフードともいわれるシャワルマ。近年日本人の間でもトルコ料理のケバブという名で知られるようになってきた

さて今後学科履修生の学習意欲を高め、継続的履修を促すため必要なものは何であろうか。まず次の質問に対する回答から問題を提起してみたい。質問・前後期を通じて分かりにくかった、よく理解できなかったと思うことは何ですか。

履修生	回答
学科履修生	文法(3)双数と複数
全学共通履修生	文法(3)発音の聞き取り

ここでは学科履修生、全学共通履修生ともにはつきりと文法と回答している。特に学科履修生については、双数と複数も文法事項であることから履修生全員(この質問も裏面にあったため未回答者がいた)が文法と答えたことになる。ここから以下のこと判明するであろう。アラビア語が難しいというイメージが履修生の間に定着していることは前回述べたが、それは初級の段階で意識されている文法の壁に対する気持ちを表現したも

のと言えよう。全学共通履修生にとってアラビア語の仕組み、語末の発音変化、アラビア語自体を学べたことに対する評価と文法はまた別物であると感じていることが分かる。

アラビア語は、導入のための授業に多くの時間を割かねばならない言語である。履修生の負担を考慮する時、教員は、文法に関してどのタイミングで、また何から取り上げるべきかを慎重に検討しなければならない。教育目標と時間数、またクラスにおける履修生の能力や問題意識の違いにも配慮して判断しなければならぬ。以前、アメリカの大学でアラビア語教育に携わっていたレバノン人教師が、初年度に双数形(アラビア語では二つ、二人を表す形がある)はこう、複数形はこう、語末の発音の違いはこうだと説明しても翌年履修生の数は半減する。文法を扱うのは、本当に学びたいという意欲を持った学生が確定してからでも遅くはなく、またその方が望ま

しい、と言っていたのを思いだす。初年度は、アラブ人にとってアラビア語とは何か、これをテーマにして授業を行うだけで十分である、というものである。確かにそうかもしれない。しかし限られた時間数で、ある程度水準を目指すとなると、初級の段階においても文法の学習は不可欠であるし、ネイティブ教師としてできることと日本人教師としてできることには違いがあるであろう。現在、二〇一七年度に向けてナクシユバンデー先生と作成している学科履修生用初級会話テキストがある。ネイティブと非ネイティブの言語教育に対する発想や方法の違いは違いとし、逆に一緒にできることを模索する試みである。本学のカリキュラム、そして履修生の気質と問題意識を長年の経験から理解しているナクシユバンデー先生と会話、あるいは会話の糸口をつかむために必要な基本表現を一五回にまとめたもので、文法については、必要に応じて授業内で説明を加え

ることとし、テキスト内ではほとんど触れないようにしてある。この基本表現をもとに、履修生の反応を読み取りながらアラビア語の周辺文化について話題を展開していくことができれば、分かりにくい文法から分かりたくなる文法へと履修生の意識も変わっていくのではないかと考えている。

次の問題は、アラビア語にはまだ言語と連係した現地留学制度がないことである。学科履修生にとって留学制度のあるなしは、言語選択と言語学習の継続に微妙な影響を及ぼしていると感じている。言語を異文化理解の手段として位置付ける場合、その言語が使える、試せる場があるかどうかによって言語とその周辺に対する関心も異なってくるであろう。

アラビア語圏への現地留学は、もともその制度を有している大学が少ない上に、近年の不安定な現地情勢の影響を受け、ほとんどの大学で事実上実施することができない状況が続いてい

基準について議論を深めていくためにはアラブ世界で使用されているアラビア語の現状、またそれを日本国内で学ぶ履修生についての詳細なデータの収集と分析が不可欠である。

この点について二〇一六年、第三二回日本中東学会の年次大会で「非母語話者に対するアラビア語教育と評価…アラブ地域と日本における事例」と題するセッションが開催され、その中でNPO法人、日本アラビア語検定協会による「アラビア語検定を通じて見る日本におけるアラビア語学習評価」という報告が行われたことは注目に値する。報告では、これまで協会が実施した九回の試験と受験者、及び合格者のデータが紹介され、アラビア語運用能力の測定と効果的な学習方法について提言が行われたと聞いている。これまでこの検定試験を積極的に活用しようとする大学は少なかつた。検定の結果と、それが意味する言語運用能力との関連性が明確になっていなかったこ



2016年度、京都でのアラビア語集中講座合宿の案内

る。こうした状況に対応するための試みとして昨年、京都ノートルダム女子大学の鷲見朗子氏を中心となり、「アラビア語集中講座合宿」が実施された。夏季休暇中の一週間でアラビア語だけで過ごすという企画である。講

師の半数がネイティブスピーカーであること、レベル別のクラス編成によってアラビア語のコミュニケーション能力のアップを図ること、アラブ文化に親しむイベントを準備したこと、この企画が目指すことは、日本にしながらアラビア語圏の雰囲気を経験できる環境を提供することであった。鷲見氏によると、京都での開催にもかかわらず、関東や北海道の大学からも参加者があり、充実した一週間であったとのことである。今年も第二回目が開催された。残念ながら本学から参加希望者はいなかったが、こうした企画が関東圏においても定期的に実施されるようになれば、本学の学科履修生にとって大いに刺激になるであろう。

最後の問題は、アラビア語にはまだ公的に認定された検定試験がないことである。大学における言語教育にその成果を求められる場合、何を基準とすればよいかという問題については、ここ数年学科



初級後期、アラビア文字はもう簡単。基本動詞を使った文も作れる

とが大きな理由であった。しかし今後紹介されたデータの検証が進み、検定の活用価値が明確になれば、本学の履修生にも受験させる機会が出てくることも考えられる。

以上、アラビア語千夜何夜物語として本学におけるアラビア語教育の歴史から始まり、多文化コミュニケーション学科におけるアラビア語教育の現状と課題を指摘し、そして最後に、そうした課題を克服するための方向性について検討してきた。履修生、教員、そして教育環境、それぞれに異なる課題があり、その克服に向けた方向性も様々であるが、履修生と教員の地道な努力がある限り教育環境は、確実に改善されていくであろう。そして将来、本学科のアラビア語履修生が世界各地で活躍する時代が到来した時、ラーヒブ（本稿（上）参照）の言う千夜一夜でも千夜二夜でもないその新しい時代を何と呼ぶのか、今から検討していきたい。

内でも議論が重ねられてきた。以前外務省のアラビスト（アラビア語専門官）養成に携わっていたころ、国内研修終了時に二〇〇〇語試験という単語試験を実施したことがある。ドイツで開発されたメソッドによって選択された時事アラビア語二〇〇〇単語を参考に作成した単語集を学習させ、制限時間内に何語答えられるかを試すものであった。

学科履修生に対してもこうした単語量を一つの判定基準とすることも考えてよいであろう。実際二〇一五年度中級の履修生六名には試験的に単語リストを作成し、試験を実施してみた。学期終了後のアンケートで尋ねてみたところ、やってよかったが三名、どちらかと言えばよかったが三名であり、こうした試験と能力判定基準の関係が明確なものになれば、学習意欲を高める有力な要因になりうることを感じさせた。しかし単語量を含め、会話、聴解、作文、読解など、その他の

国際貿易と ロジスティクスの経済学

新井 敬夫

港湾都市と貿易と経済発展

港町は様々な歌や映画に登場し、異国のロマンを漂わせる。船乗りがパイプを吹かしながら、夜の波止場に行む。見たことはないのに、そんなシーンがイメージできる。しかし、港湾都市と言い換えるともっと現実的だ。交易は地域間の分業を意味し、その拠点にはマラッカ海峡でも、シルクロードのオアシスでも、都市として繁栄した。大型船舶の近代化は交易路としての海の地位を引き上げ、港湾都市の発展を促した。経済発展の一つの指標は「都市化率」で、都市人口比率が高くなるほどその国の一人当たり所得も高まる傾向にある（因果関係はさておき）。経済発展と都市化と交易の三つは切っても切れない関係にある。近代以降の国家間の交易は、一般に貿易と呼ばれる。

（写真2 「交易」と呼んだ方がふさわしい時代の港湾荷役 — マレーシア・ペナン島・ジョージタウンで見た壁の絵）

プロローグ — 船長が眠れないとき —

まだ小学生だった頃、NHKテレビの「みんなのうた」で聞いて、九〇パーセントくらい憶えている歌がいくつかある。「今でも船長と呼ばれている船長の夜」（作詞 名取和彦）もその一つだ。遠い外国への漠然とした憧れを増幅してくれた。

♪ ～ 短いお祈りをすませると船長は
オウムに「お休み」を言う（中略）
船長は今夜も寝付きが悪い。そこでおま
じないに港の名を思い出してゆく
ジャカルタ コロンボ ケープタウン
アレクサンドリア ポートサイド マル
セイユ リスボン ダブリン リバプー
ル オスロ コペンハーゲン ストック
ホルム ポストン ニューヨーク
ニューオーリンズ 何度かアクビを繰り返す

リオデジャネイロ モンテビデオ サン
ティアゴ だんだん声が低くなる
サンフランシスコ バンクーバー
～ 後略 ♪
（写真1 役割を終えた帆船はポストンの港で静かに余生を）



この歌を私が聞いたのは一九七〇年頃だから、今から四〇年以上も前になる。歌詞に登場する都市にはヨーロッパ、アメリカのそれが多い。さらに一〇年後の一九八〇年、本当のところ世界のどの港がどれくらい栄えていたのだろう。世界の港湾都市をコンテナ取扱量（個数）で比較し、その繁栄ぶりを検討してみよう

（次頁表）。現代の大規模な物流はコンテナ輸送をベースにするから、港湾の活動規模は標準的な二〇フィート（twenty feet）コンテナに換算した（equivalent）コンテナ取扱量を単位（unit）として測られることが多い。次の表でもこの単位TEU（前出三つの括弧内の英語頭文字をとっている）が用いられている。ゴシック体で示したのが「アジアの港湾」である。また、アメリカのみ国名の後に東西を表示し、東海岸の港湾か西海岸の港湾か区別した。また、アステリクス（*）はニューヨーク／ニュージャージーである（二〇一四年の二四位）。

一九八〇年、第一位ニューヨーク、第二位ロツテルダム、第三位香港の上位三港は誰もが知る世界的名港である。以下アジアの港湾を拾い出してみよう（カッコ内は国名・地域名と順位）。神戸（四）、高雄（台湾Ⅱ五）、シンガポール（六）、横浜（一三）、基隆（台湾Ⅱ



一五)、釜山(韓国一六)、東京(一八)、ジェッダ(サウジアラビア一九)、マニラ(フィリピン二五)、ここまでが一九八〇年のコンテナ取扱量世界ランク三〇位以内のアジアの港湾

表/コンテナ取扱量ランキングの変化(単位/TEU)

1980			順位	2014		
港湾名	国・地域	取扱量	位	港湾名	国・地域	取扱量
ニューヨーク	アメリカ 東	1,947,000	1	上海	中国	35,290,000
ロッテルダム	オランダ	1,900,707	2	シンガポール	シンガポール	33,870,000
香港	香港	1,464,961	3	深圳	中国	24,040,000
神戸	日本	1,456,048	4	香港	中国・香港	22,280,000
高雄	台湾	979,015	5	寧波-舟山	中国	19,430,000
シンガポール	シンガポール	917,000	6	釜山	韓国	18,680,000
サンファン	プエルトリコ	851,919	7	青島	中国	16,620,000
ロングビーチ	アメリカ 西	824,900	8	広州	中国	16,410,000
ハンブルク	西ドイツ	783,383	9	ドバイ	UAE	15,250,000
オークランド	アメリカ 西	782,175	10	天津	中国	14,050,000
シアトル	アメリカ 西	781,563	11	ロッテルダム	オランダ	12,300,000
アントワープ	ベルギー	724,247	12	クラン	マレーシア	10,950,000
横浜	日本	722,025	13	高雄	台湾	10,590,000
ブレーメン	西ドイツ	702,764	14	大連	中国	10,130,000
基隆	台湾	659,645	15	ハンブルク	ドイツ	9,730,000
釜山	韓国	634,208	16	アントワープ	ベルギー	8,980,000
ロサンゼルス	アメリカ 西	632,784	17	廈門	中国	8,570,000
東京	日本	631,505	18	タンジュンペレバス	マレーシア	8,550,000
ジェッダ	サウジアラビア	562,792	19	ロサンゼルス	アメリカ 西	8,340,000
ボルチモア	アメリカ 東	523,460	20	ロングビーチ	アメリカ 西	6,820,000
メルボルン	オーストラリア	512,864	21	レムチャパン	タイ	6,580,000
ルアーブル	フランス	507,289	22	タンジュンプリオク	インドネシア	6,500,000
ホノルル	アメリカ 西	441,292	23	ブレーメン	ドイツ	5,780,000
フェリクストウ	イギリス	393,410	24	ニューヨーク*	アメリカ 東	5,770,000
マニラ	フィリピン	386,652	25	常口	中国	5,770,000
ロンドン	イギリス	383,487	26	ホーチミン	ベトナム	5,370,000
シドニー	オーストラリア	383,005	27	連雲	中国	5,010,000
サザンプトン	イギリス	361,707	28	京浜(東京)	日本	5,000,000
ハンプトンローズ	イギリス	354,098	29	コロombo	スリランカ	4,910,000
ダブリン	アイルランド	341,450	30	アルヘシラス	スペイン	4,550,000

二〇世紀の港湾に見る
欧米とアジアの相対的地位
— 臨海型アジア産業国家の台頭 —

で、計一〇港湾都市がランクインしている。実は、眠れない船長の歌に出てくる港はこのランクにほとんど出てこない。(写真3 一九八〇年第二七位のシドニー港は世界の三大美港の一つ。客船バースにはクレインなどのコンテナ作業用の重機はなく、すっきりと)

北米の主要地域が後背地となるニューヨーク港(一九八〇年一位)、ライン水運と連なることでヨーロッパ内陸をもカバーし、ユーロポルト(欧州港)とも呼ばれるロッテルダム港(同二位)の繁栄はこの時代の世界貿易の象徴とも言える。国際経済の大動脈は大西洋航路であった。また、イギリス統治下にあった香港(同三位)はヨーロッパとアジアを結ぶ絶好の結節点に立地していた。

右表出典:国土交通省港湾局計画課

アドレス: <http://www.mlit.go.jp/common/000228237.pdf>より

(最終閲覧2016年12月9日)

注:なお、コンテナ個数は港湾での輸出入合計数で、空コンテナも含み、さらに積み替えや通過コンテナも含む、との注釈がある。また、使用した原資料は CONTAINERISATION INTERNATIONAL YEARBOOK 1982 および 同Lloyd's List との記載がある。2014年表では、「東京」は「京浜(東京)」と記載されている。筆者の判断で一部港湾名表記などの修正、加筆などを行った。



4

アラルンプールの外港でマラッカ海峡にあるクラン（二二）、インドネシア・ジャカルタ首都圏の貿易港タンジュンプリオク（二二）はそれぞれの国の産業経済の中核港としての役割を果たしてきた。

（写真4 シンガポール港（一九八〇年六位、二〇一四年二位）ジロン港の外観、



5

写真5と写真6 急速に発展したマレーシア・クラン港の北港（二〇一四年二位）

さらに新たな動きもある。シンガポールとの協力によって同国と隣接するマレーシア・ジョホール州で進む「イスカランダール（Iskandar）計画」の主要港としてのタンジュンペレパス港（一八）は



6

マレーシアにとっては「国土のもう一つの拠点整備」と言える。また、インドネシアでも首都圏の貿易を担うタンジュンプリオク港（二二）に加え、新たな港湾計画が進む。このように中国以外でも、一国で複数の貿易拠点整備が進行中である。また、スリランカやベトナムといったアジア後発組の港湾が世界三〇位ラン

注目すべきは、我々が経済学で教える

「輸出志向型工業化政策（Export Oriented Industrialization）、輸出主導型経済成長（Export Driven Economic Growth）」によって興隆したアジア四小龍（エズラ＝フォーゲルの著書名となっている）、あるいはアジアNIEsを支えた高雄と基隆（台湾）、シンガポール、釜山（韓国）、および前出の香港という各港が、東京港（同一八位）よりも上位にランクされてきたことである。国内市場規模がそれほど大きくない四小龍は海外の市場獲得を目指して積極的な工業化を進めたので、その原材料や中間財の輸入と製品の輸出のためには港湾の整備と利用が必要であった。国土、人口、経済規模との対比において、これらの港湾の規模は著しく大きい、と言えそうだ。この時期、ASEANからはマニラ（同一五位）がランクインしていた。

二一世紀の海と港湾

—中国沿岸部とアセアンの追跡—

二〇一四年になると世界の交易路、ロジスティクスはがらりと変わる。コンテナ取扱量の上位は、第二位上海（中国・直轄市）、第二位シンガポール、第三位深圳（中国・広東省）、以下アジアでは香港（四）、寧波―舟山（中国・浙江省―五）、釜山（韓国―六）、青島（中国・山東省―七）、広州（中国・広東省―八）、ドバイ（アラブ首長国連邦―九）、天津（中国・直轄市―一〇）、クラン（マレーシア・セランゴール州―一一）、高雄（台湾―一二）、大連（中国・遼寧省―一四）、厦門（中国・福建省―一七）、タンジュンペレパス（マレーシア・ジョホール州―一八）、レムチャバン（タイ・バンコク近郊―二二）、タンジュンプリオク（インドネシア・ジャカルタ近郊―二二）、嘗口（中国・遼寧省―二五）、ホーチミン（ベトナム―二六）、連雲港（中国・江蘇省―二七）、京浜東京（二八）、コロンボ（スリ

ランカ―二九）、の順となる。ちなみにタンジュン（Tanjung）とはマレーシア・インドネシア語で「岬」を意味する。

注目すべきは、中国の港湾が劇的に発展し多数が上位にランクインしていることである。さらにマレーシア、タイ、インドネシアの港湾が順位を上げ、ベトナム、スリランカの港湾が三〇位以内に登場してきた。一方、欧州の港湾ではロッテルダム（二二）、ハンブルグ（二五）、アントワープ（二六）、が上位にあり、アメリカのニューヨーク／ニュージャーシーは二四位となった。

このような、港湾のランクの変動は世界経済の構図の変化と軌を一にしており、二一世紀初頭の経済の勢力図を色濃く反映している。改革開放以降の中国の産業発展は周知のとおりだが、特に遼東半島、山東半島から上海を経て、福建省、広東省に至る沿海部の発展は著しい。東南アジアでは、タイ・バンコク近郊にあり同国の輸出入を一手に担うレムチャバン（二二）、マレーシアの首都ク

キング入りする時代になっていることも注目しておきたい。

世界貿易の変化はアジアだけにとどまらず、アメリカの港湾の地位にも影響を与えている。ニューヨーク／ニュージャーシー（東）とボルチモア（東）は相対的地位を下げ、ロザンゼルス（西）とロングビーチ（西）が上位に来ている。アメリカにとってはアジア航路となる太平洋航路の繁栄が窺い知れる。

ただ、注意しておくべきは、アジアとその港湾の繁栄はあくまでも「重量と体積のある経済活動」からもたらされている、という点である。現代では「重量と体積と距離の関係ない経済活動」も大きくなっているため、モノを作る経済活動だけで世界経済の全体構図を語ることは適切でない。先進各国は情報通信技術（ICT）産業、金融工学サービスなどの第三次産業に比重を移しつつある（ICT産業のような知識集約型産業は、第四次産業とも言われる）。このよ

うな経済活動を、ケアンクロス（Cairncross, F.）は「距離の死」と呼ぶだろう（Cairncross, F., 1997, *The Death of Distance: How the Communications Revolution Will Change Our Lives*; Boston, MA: Harvard Business School Press）。この点に留意しつつ、それでもなおアジアの製造業の発展と「距離の重要性」を実感せざるを得ない（ケアンクロスに対して、私はDistance Mattersと言っておこう）。

港湾と内陸の

コネクティビティー —アジアの内陸地域を行く—

経済発展を目指す国・地域にとって、（中継港を除いては）港湾整備だけでなくコネクティビティー（連結性）確保のための内陸輸送路も不可欠で、これを含めた総合的なロジスティクスネットワークが必要である。元々スズ鉱山の開発拠

点として出発した内陸の首都クアラルンプールにとっては、外港であるクランとの接続が発展のカギの一つだったと考えられる。アジア諸国では内陸輸送路も急激に整備が進みつつある。

例えば、陸路（道路）でシンガポール港（二〇一四年二位）からシユロン工業地域を抜け、ジョホール水道を橋梁で越えて北上しマレーシアに入り、クラン港（二〇一四年一二位）や首都クアラルンプール近郊の工業地域まで（バームオイルのプランテーションの中を）走るのに高速道路を使って数時間である。途中、前出「イスカンダール」計画の中核港であるタンジュンペレパス港（二〇一四年一八位）へのアクセスも可能である。この順位にリンクする港湾が道路利用で数時間の範囲に複数あるという事実は、マレー半島そして現代アジアの産業発展の象徴である。このルートには新幹線計画もある。

（写真7 シンガポールマレーシア国境、ジョホール水道のセカンド・リン

ク・アクセス架橋は貨物車両で渋滞中。

写真8 シンガポールマレーシア間の高速道路のパーキングエリアに駐車する

大型トラックと長距離バス

もつともつと海から遠いユーラシア内陸



7



8

地域では、コネクティビティーの実情はどうかになっているのだろうか。モンゴルの首都ウランバートルから北方向に道路でロシア・シベリアを目指す、セレンゲ県にある国境のイミグレーションまでほとんどストレスを感じることなく（あくまでも私にとって）快適な舗装道路の走行が可能である。国境からはバイカル湖まであとわずか

である（ただし、運転には十分注意が必要である。なぜなら、交通量が少ないので高速走行が可能ないように見えて、実はカーブや丘陵のうねりがあるからだ。さらに、十分な照度が確保されていないように感じたので、夜間は一層の注意が必要



9

要だろう）。現時点では、深夜の東名高速道路のような夥しい量の輸送用大型車輻に出くわすことはない。途中、並走したり、交差したりするモンゴル縦貫鉄道はよく整備されており、鉄路を走る長い編成の貨物列車は、コンテナをゆっく



10

輸送していた。どこかの港湾から来たのだろうか。流れの遅い時間に身を委ね、のんびりと草原を眺めていると、「眠れない船長」とは逆になる。
われわれ日本人には想像しにくい「超内陸」であるモンゴルにとっても、あるいは中国西部にとっても、インド亜大陸にとっても、内陸の開発を進めるのであれば海港とのコネクティビティを確保するような、高速度かつ安全な大量輸送用のインフラ（鉄道網、道路網など）が不可欠だが、さらにその密度、ネットワーク、および車輛の質も求められるようになるだろう。製造業を中心とした世界経済の構図を大きく変えた海域アジアの経済発展とそれを支える港湾の繁栄は、そう遠くない将来、内陸アジアの繁栄にも波及するのだろうか。そして、その時は、港のロマンが消えゆくように、草原や砂漠のロマンも消えゆくのかも知れない。

（写真9 モンゴルの草原を貫く鉄道を

走る長い編成の貨物列車はコンテナを積載。写真10 モンゴルの草原を貫く幹線道路。写真11 中国内陸部で進むインフラの整備）

エピソード

―船長はかつて、旅客船の船長だった―

アレクサンドリア、ポルトサイド、マルセイユは地中海の、リスボン、ダブリン、リバプール、オスロ、コペンハーゲン、ストックホルムは北部大西洋と北海、バルト海、ボスニア湾の主要港ではあるが、現代の製造業のグローバルネットワークを担っているとはまでは言えない。

この歌詞の作者は、ロマンに満ちたかつてのヨーロッパの（あるいはヨーロッパ風の）港と旅客船をイメージして作詞したのだろう。歌詞の中で船長が眠るために思い浮かべたのは、コンテナとクレーンで機械化されたバースをいくつも備えた「現代の港湾」というよりも、昼は様々な国からの旅人と荷役の労働者で賑わい、夜は船乗りが酒場でくつろぐ…そんな「いにしえの港町」だったはずだ。経済発展とロマンの関係は、港でも、草原でも砂漠でも単純ではない。



11



12



13

（写真12 かつてのシルクロード、中国・新疆ウイグル自治区の道路で）

（写真13 インド・マハラシュトラ州内陸で。トラックはなお旧式）

マッチョな肉体は銅像に最適である。フィレンツェのダヴィデ像(写真1)やロンドンのアキレス像(写真2)は男性裸体像である。二人とも伝説的な人物である。

ダヴィデの活躍は、旧約聖書のサムエル記に描かれている。紀元前千年頃、イスラエル王国はペリシテ軍に苦戦を強いられていた。イスラエル兵は皆、身長二メートルを越える大男ゴリアテを見ると、恐怖で逃げ出していた。そこで、羊飼いのダヴィデが裸になってゴリアテに投石袋を投げつけ、その勢いでゴリアテの首を切り落とした。これで形勢が逆転し、ペリシテ軍は敗走した。その後、ダヴィデはイスラエル王国の二代目国王となった。ミケランジェロによるダヴィデ像は、投石袋を持ち、ゴリアテを睨んでいる姿である。

一五〇四年に完成したダヴィデ像は、フィレンツェの象徴的存在である。この時期のフィレンツェはフランスのイタリ



2. アキレス像

ア侵攻、ルネサンスを牽引したメディチ家の没落、狂信的な修道士サヴォナローラの台頭など不安定な政情が続いた。復権を狙うメディチ家を退けて誕生したフィレンツェの共和政府は、勝利の象徴としてダヴィデ像の制作をミケランジェロに依頼した。この像は、ダヴィデが大男ゴリアテに屈しなかったように、フィレンツェ市民が外部の権力には屈しない

ことを象徴している。

一方、アキレスはギリシア神話に登場する神であり、ホメロスの叙事詩『イリアス』の主人公である。『イリアス』は紀元前十三世紀ごろのトロイア戦争を題材にしたものである。トロイア戦争は、スパルタの王妃ヘレネがトロイアの王子パリスにさらわれたことを発端とする。スパルタやミケーネなどのギリシア連合軍とトロイアの間で十年間にわたって繰り広げられた。ギリシア側について戦っていたアキレスは、多くの敵将を打ち破った英雄であった。しかし、結局、アキレスはパリスに踵(アキレス踵)を撃ち抜かれて死去した。

この英雄をモデルにした銅像は、ナポレオン戦争後の一八二二年、ロンドンのハイドパーク・コーナーに建てられた。現在のハイドパーク・コーナーには、ウェリントン・アーチャウエリントン像、第一次戦争記念碑など数多くの記念碑があるが、アキレス像はその中でも最

マッatchョな銅像

高山陽子

A BRONZE STATUE STORY



1. ダヴィデ像

に、その人物の属性や職業を示すものが必須である。裸体像にはそれが欠けている。王侯貴族の銅像は公式の服装を、軍人の銅像は軍服を着ている。それは、見る者に対して、どんな人物を見上げているのかを明らかにしている。この点からいえば、かつての女性像は女性である以上の属性は求められていなかったことになる。



5.上海市内の女性像

戦死した英雄は、英雄として尊敬され続けるが、帰還した英雄は、その後の人生を狂わせてしまうことがある。映画『父親たちの星条旗』（二〇〇六年）は、英雄というレッテルを貼られた若者たちの帰国後の生活に焦点を当てた。映画は、海軍衛生兵のドクが、報道カメラマン、ローゼンタールが一九四五年に硫黄島で撮影した写真「硫黄島に掲げられる星条旗」の秘密を語る形で進む。写真に写ったドク、レイニー、アイラの三人は本国に呼び戻され、国債発行キャンペーンに駆り出される。レイニーは期待



6.硫黄島モメンタル

も早く立てられたものの一つであり、イギリスにおける最初の男性裸体像の記念碑である。アキレス像は全裸が許されず、建立に際して股間に葉っぱがつけられた。

こうした銅像の股間を扱ったのが、木下直之の『股間若衆…男の裸は芸術か』



3.平和祈念像

である。本書では、明治以降の日本人芸術家がどのように全裸の彫刻において股間を表現してきたかを論じている。長崎の平和祈念像（写真3）の作者である北村西望はいくつもの男性裸体像を制作したが、その際に彼は股間を曖昧に表現した（写真4）。これを木下直之は、「と



4.健康美

ろける股間」と名付けた。

実は、セクハラすれすれの銅像は少なくない（写真5）。近年では、公共の場に置かれた女性裸体像や短いスカートを着いた少女の像、いわゆる「パンチラ」の少女の銅像などがセクハラに当たるとして問題視されるようになったが、かつて、女性裸体像はさほど騒ぎにはならなかった。男性裸体像が醸し出す問題は、裸をどのように表現するかということだけではなく、裸であることそのものにも原因がある。男性の銅像はその人あるいは国家を顕彰するために制作されるゆえ

した仕事に就けず、アメリカ先住民のアイラは行く先々で差別を受けた結果、酒浸りになり、一九五五年に死去する。ドクのみが平穏な人生を送る。

この映画にも登場する海兵隊記念碑（通称、イオウジマ・メモリアル）は、一九五四年一月一日に除幕した（写真6）。これは、太平洋戦争の戦没者だけはなく、海兵隊の戦没者全体を追悼するものである。ローゼンタールの写真を基にして作られた記念碑は、身長は約一〇メートルの六体のマッチョな銅像からなる。この記念碑はアーリントン国立

墓地の隣にある(写真7)。アーリントン国立墓地に埋葬されることは、軍人にとって極めて名誉なことであるが、埋葬資格が厳しく、家族が希望しても埋葬されないことも少なくない。反対に、ここに埋葬される資格があっても、家族の墓に埋葬する人も多い。

ポトマック川の向こう側には、ナショナル・モールが広がり、数多くの記念碑がある。二つのベトナム戦争記念碑もここにある。一つは黒い花崗岩に死者の名前を刻んだマヤ・リン設計の記念碑で(写真8)、もう一つはフレデリック・ハート設計の三人の兵士の銅像である(写真9)。一九八二年に完成したマヤ・リンのデザインは、墓石のようで、ベトナム戦争の失敗を思い出させるものとして一部の人びとに嫌われた。そのため、マヤ・リン設計の記念碑の隣に伝統的なマッコイ銅像が一九八四年に立てられた。この当てつけは功を奏さず、実際、ベトナム戦争記念碑といえはマヤ・

リンのものを指し、木陰にある三人の兵士の銅像はそれほど目立つ存在ではない。

マッコイ銅像としてナショナル・モールで存在感があるのは、朝鮮戦争記念碑である(写真10)。草むらに立つ一九体のリアルでマッコイ銅像は、海兵隊記念碑とは違った意味で圧迫感がある。これは、一九九五年七月二十七日、朝鮮戦争の戦没者を慰霊するために立てられた。慰霊碑はステンレス製の一九の像から構成される。その内訳は、陸軍兵一五名、海兵隊員二名、海軍衛生兵一名、空軍兵一名である。

雨後の竹の子のように、よきよきと記念碑が建てられるアメリカの状況を、エリカ・ドスは「メモリアル・マニア」と表現した。記念碑によきよき現象は、ナポレオン戦争後と第一次世界大戦後のイギリスや、ビスマルクとヒトラー時代のドイツ、スターリン時代のソ連、毛沢東時代の中国にも起こったもの



7. アーリントン国立墓地



9. ベトナム戦争記念碑



8. ベトナム戦争記念碑



10. 朝鮮戦争記念碑



11. マダムタッソー

で、日本でも二〇世紀初頭に起こった。記念碑によきよき現象の時期における銅像は、誰もが知っている英雄をマッコイに表したものが多く。

二〇〇一年同時多発テロ後におけるアメリカの英雄は消防士たちであった。世界貿易センターへ初動出動した消防士は約四百名で、殉職した消防士は三四六名であった。消防士の葬儀には全米から多くの消防士が参列した。「ニューヨークの英雄」と称えられた消防士は、同時多発テロ以降、アメリカの愛国心を鼓舞する存在となった。ニューヨークのマダムタッソーには、瓦礫の中で星条旗を立てる三名の消防士のマネキンが置かれ(写

ゼミナール
紹介Seminar
introduction

「アクションを大切に」

多文化コミュニケーション学科
「オリエンテーションゼミⅡ」

大塚直樹

国際関係学部では、一年次から四年次までゼミナール形式の授業が必修科目である点にひとつの特徴がある。そのなかでも一年次の導入科目であるオリエンテーションゼミ（基礎ゼミ）は、四年間の学生生活を左右するゼミに位置づけられる。なぜなら、一年次ゼミでの学びや出会いが今後四年間の勉学の見取り図を描く基礎となるからである。

多文化コミュニケーション学科では、前期・後期とオリエンテーションゼミⅠ・Ⅱを開講している。オリエンテーションゼミでは、ゼミ選抜を実施せず、機械的に振り分けて学生の所属を決めている。また、より多くの学生や教員と交流できるように考慮して、前期と後期とでゼミの入れ替えを実施している。したがって、多文化コミュニケーション学科の学生は、一年生のうちに最低限二名の教員がある程度詳しく知ることができ、三〇名程度（約

真11)、世界貿易センターそばには消防士の活躍を描いたレリーフが作られた(写真12)。

そもそもアメリカでは同時多発テロの前から、消防士は英雄と見なされていた。ユニバーサル・スタジオ・ジャパンには消防士の活躍を題材とした「バックドラフト」というアトラクションがある。CIAやFBIには「陰謀」、警察には「汚職」というネガティブなイメージがあるが、消防士には命を顧みず人命救助にあたるというクリーンなイメージがある。さらにアメリカ特有の現象でもあるが、多くの女性にとって消防士は「セクシー」な存在なのである。

男性ストリッパーを題材にした映画『マジック・マイク』(二〇一二年)では、定番の警察官の制服やドッグタグ(認識票)を下げた迷彩服の男性と並んで、消防士の制服姿のストリッパーが登場する。いずれも銅像的なマッチョな肉体を持つ。二度も雑誌『ピープル』で最



12. 911メモリアル

もセクシーな男性に選ばれたブラッド・ピッドが映画『トロイ』(二〇〇四年)でアキレスを演じたのは、極めて妥当である。この映画に登場する人物の多くはダークな髪色をしているが、アキレスのみが金髪である。これはアキレスが美しい金髪であったという『イリアス』の記述に基づく。そして、金色といえば、『マジック・マイク』に登場するストリッパー・クラブにある金色のダヴィデ像を思い出させる。ときおり映る金色のダヴィデ像は、まさに、男性ストリッパーのカリスマである。

参考文献

木下直之 二〇一二年「股間若衆…男の裸は芸術か」新潮社

Erika Doss 2010 *Memorial Mania: Public Feeling in America*. University of Chicago Press.

Seminar introduction

多文化プレゼンでは、「身近な多文化」をテーマにしたグループによるプレゼンテーションをおこなう。大切なことは、プレゼンテーションの内容がグループによるフィールドワークに基づいていることである。フィールドワークとは、簡単にいえば「研究対象となっている社会に自らがおもむき、その社会に関し何らかの調査をおこなうこと」と定義される。調査対象者・対象地域は、亜細亜大学関係者以外・亜細亜大学以外（学外）としている。学外に限定する理由は、アクションを起こす際に、安易に学内「資本」に頼らないための予防線でもある。また、フィールド調査は必ずグループで実施するように指導している。



グループワーク。パソコンを使い、調査データを整理

一五名×二回）の学生と少人数授業で接する機会を有する。

今回紹介するオリエンテーションゼミⅡは、ここ数年にわたり「身近な多文化を知る」をキーワードにした授業が展開されている。学生たちは、夏期休暇中に「身近な多文化について考える。具体的には、身近な多文化についての写真を撮影して、それについて解説すること」という課題に取り組み。この課題を通じて、学生が異文化や他者理解に対して関心を向けられるように工夫している。

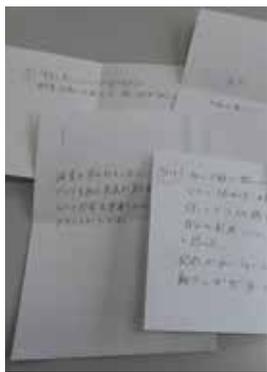
以上の考え方に基づき開講しているオリエンテーションゼミⅡの内容は「アクション」ということばで表現できる。日本ではアクティブラーニングとも呼ばれるが、教室内外でのアクションを大切にしている。具体的には「多文化プレゼンテーション」（通称、多文化プレゼン）という共通テーマを掲げ、以下の内容を実施している。



フィールド調査。指さし用のボードを作成し、インタビューをしやすい工夫



フィールド調査。グループで街ゆく人にインタビューを実施



ゼミ内代表決定のための投票用紙。選んだ理由も記載



ゼミ内発表。各グループが10分程度でプレゼンを実施



グループワーク。調査結果をプレゼンテーションするために準備

グループ)と他のグループとのプレゼンテーションの内容に関する相違点や共通点、長所・短所を見つけることができる。とくに自らがアクションを起こしているからこそ、よりの確な評価の視点を身につけることが可能になる。

学生指導の際、オリエンテーションゼミを担当する教員間(二〇一六年度は九名)であまり厳格なルールを定めていない。先にあげた大きな枠組みだけを了解事項として、それ以外の具体的な指導はそれぞれの教員の専門分野を背景とした教育方針に依拠している。このような方法は、ゼミ別にみると指導の濃淡を生むかもしれない。他方で、こうした教員の多様性が学生の多様な学びに結びつくとも考えられる。この意味でオリエンテーションゼミIIは、多文化コミュニケーション学科の導入科目にふさわしいのではないだろうか。

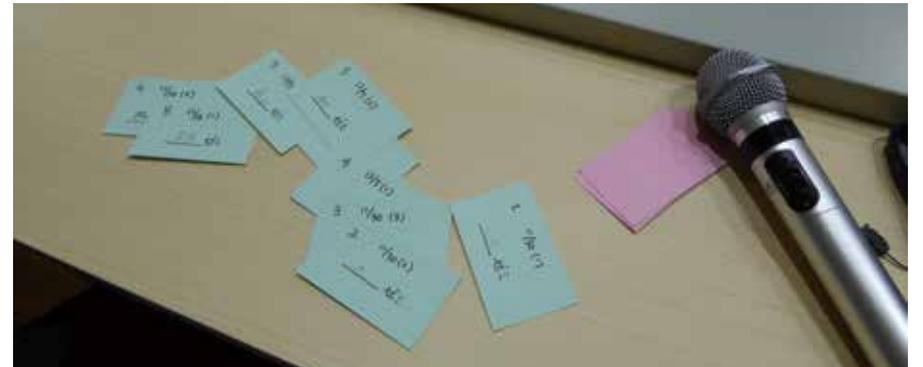
蛇足だが、合同プレゼンテーション

グループの発表は、録画した上で、次年度のオリエンテーションゼミの学生の閲覧資料としている。

では、こうした授業で「何」力が身につくのだろうか? まずは、現場対応力である。教室外に身を置き、インタビューなどを実践するフィールドワークでは、その場での臨機応変な振る舞いが求められる。次に調整力である。授業では、グループ分けから始まり調査テーマの決定、フィールド調査、プレゼンテーション準備と、これまであまりなじみのない学生同士が協力して進めていかなければならない。そうした過程で、お互いが妥協しつつも物事を「なんとかうまくやる」コツを身につけられる。最後に評価力である。ゼミによっては、ゼミ内の代表を学生投票で決定している。また合同ゼミでは、毎回それぞれの発表に関する課題シートを提出させている。こうした作業を通じて、自ら(自分たちのグ



表彰。教員による審査に基づき三賞を発表



合同ゼミ。発表順番を決定したカード。プレゼンは3回にわけて実施。公平性を期すため、初回授業ですべての代表グループがプレゼンデータを提出

の最優秀賞のグループは、副賞として、大学案内の授業紹介ページに掲載される(蛇足としたが、この副賞が学生のこの授業へのモチベーションになっている側面もあるらしい...)



表彰。最優秀賞の副賞は大学案内への掲載



真剣に聞き入る学生。なお、次年度用資料として発表の様子を撮影(手前)



プレゼンテーションの風景

2016年

夏季 ベトナム

フィールドワーク 大塚直樹

はじめに

二〇一二年度に開設された国際関係学部多文化コミュニケーション学科は、昨年度（二〇一五年度）に完成年度を迎え、第一期の卒業生を無事に社会へ送り出した。三年次から履修可能となる「多文化フィールドスタディー」は、本学科を特徴づける一要素であり、今年度で三回目を迎えた。二〇一六年度は、多文化フィールドスタディー韓国およびフィリピンが開講されなかったため、二つの対象地域でのフィールドワークが実施された。なお、多文化フィールドスタディーの概要については、昨年度の『権——国際関係・多文化フォトジャーナル』第三号の三二ページに詳しいので、そちらを参照してほしい。冊子は亜細亜大学学術リポジトリからPDFで入手できる。

今年度紹介する「多文化フィールドスタディー（ベトナム）」は、過去二回にわたり以下のような調査地・テーマで現地調査を実施してきた。

【二〇一四年度実績】

調査地：ホイアン世界遺産区
調査時期：二〇一四年八月二七日～八月二四日（六泊八日）

テーマ：世界遺産ホイアンの観光地化と地域変化

参加者：七名（女子学生七名）

調査内容：観光客・観光産業従事者へのインタビュー、景観調査



【二〇一五年度実績】

調査地：ホーチミン市

調査時期：二〇一五年八月二八日～八月

二六日（八泊九日）
テーマ：観光都市ホーチミン市の空間的特徴
参加者：五名（女子学生五名）
調査内容：観光客・観光産業従事者へのインタビュー、景観調査、パッケージツアーの参与観察的調査

フィールドスタディーへの参加人数、対象地域の規模（対象範囲の違い）などがあり、単純に比較ができない。二回の現地実習から確認できたことは、参加学生が非母語を使用した初めての対面的な調査に一定以上の適応能力を示していた点である。

の課題を出していたが、文献の深い読み込みおよびその参加者間での共有までは時間的制約から難しい面があった。今年度は、自宅学習を例年以上に増加させることで学習時間の不足を補い、個人発表やオンライン上でレジュメを共有するなどしてこの点の克服に努めた。

今年度の取り組み

そこで、今年度はさらに一歩進めてフィールド調査の精緻化を目指した。調査の質的向上を目的として、前期授業で新たに以下の四点に取り組んだ。

まず、事前学習の徹底である。これまで以上に事前学習を周到におこなうことで調査対象地に対する知識を深め、調査時のコミュニケーションの質を高められるように方向づけた。具体的には、調査地（ベトナム、とくにホーチミン市とその周辺）に関するテキストから学生にトピックを選ばせ、レジュメの作成およびその発表を義務づけた。昨年までも類似



両年ともに二～三名のグループ単位でインタビュー調査などを実施した。インタビュー数は、二〇一四年度が約百名、二〇一五年度が約五〇名であった。インタビュー調査数の相違については、



現地調査

●初日(八月一七日)・・成田空港を九時二五分発のフライトであったため、早朝

的調査
参加者・・八名(女性七名、男性一名)
調査内容・・観光客・観光産業従事者へのインタビュー、パッケージツアーの参与観察

特徴
テーマ・・ホーチミン市観光における目的と
二四日(七泊八日)
調査時期・・二〇一六年八月一七日～八月
【二〇一六年度実績】
調査地・・ホーチミン市

次に鑑みて、今年度の「多文化
フィールドスタディー(ベトナム)」を
次の通りに実施した。

あいさつやお礼などわずかなことばであつてもベトナム語で話す／話しかけることで、インタビュー調査への入り方や対面的状況をより円滑にできるように試みた。



次に、インタビュー調査の項目作成時期の前倒しである。昨年度までは、前期授業終了間際にインタビューの調査票を完成させていた。これを今年度は一ヶ月間前倒した。またインタビュー項目のうち、基礎データ部分をこれまでより簡素化した。基礎データ部分の簡略化は、被調査者の属性を読めなくする／読み誤る可能性を孕み、両刃の剣である。今年度はこれをあえて実施した。理由として、短時間の調査における自由回答部分の情報収集量を増加させた点があげられる。短時間の調査内で個人属性データの聴取に時間を要すると、必然的にテーマと関わる具体的な調査内容の聞き取りに十分な時間を割けなくなる。

第三に、二の点との関連で模擬インタビュー調査の実施を計画した。当初は、英語での調査を前提として、本学の正規科目「フレッシュマン・イングリッシュ」担当のネイティブ教員に協力してもらい、彼女らインフォーマントに見立てて模

擬調査をおこなう予定だった。具体的には、実際の調査場面を擬似体験し、調査時間のコントロール方法などを事前に確認するだけでなく、インタビュー項目が精査できることを期待していた。しかし、時間的な制約もあり、今年度は質問項目をネイティブチェックしてもらおうレベルになってしまった。この点は次年度の課題とした。

第四に、簡単な現地語の習得である。



七時過ぎの空港集合となった。当日の台風接近にともない、フライトの遅延などの心配もあったが、大きな問題もなく、

台北で乗り継ぎをして一七時過ぎにはホーチミン市に到着した。ホテルにチェックインした後、両替をしてバンタ



察) するため、ツアーの予約を現地旅行会社で学生達自身がおこなった。その後インタビュー調査を継続した。

●五日目(八月二日)・・朝から終日、現地発のパッケージツアー(ミトー・ベンチエーの日帰りツアー)に学生達だけで参加した。

●六日目(八月三日)・・朝、ホテルフロントに集合し、徒歩でフアムグーラオ通り方面に移動し、インタビュー調査を継続した。ここで興味深かった点として、この日のリーダーの提案で学生達自らがインタビュー調査数の目標を設定したことがあげられる。教員側からはそうした提案を全くしておらず、学生達の積極性・自主性が垣間見られた。

●七日目(八月三日)・・昨日と同様に目標数を決めた上でインタビュー調査を継続した。

●八日目(八月四日)・・帰国日。朝八時にホテルフロント集合し、帰国の途にいった。



現地調査時には、とくに以下の点を留意してきた。まずは、日替わりリーダーを指名した。現地では、参加者全員に責任感をもってフィールド調査に臨んでもらうため、交代でリーダーを担当してもらった。指名といっても教員側が決定するわけではなく、学生達が自発的に順番を決め、リーダーを務めた。リーダーは、集合時の点呼や非常時の(日本への)緊急連絡、教員と相談して当日の具体的なスケジュールを決める、および次に述べるミーティングの司会進行が主な仕事になる。とくに、日本への緊急連絡は、担当教員が対応できない場合、非常に重要な役割である。当然のことながら、緊急連絡先をきちんと把握しておくことや現地の携帯電話の使用方法を確認しておくことなど入念な事前準備も必要となる。

次に、每晚ミーティングを実施した。ミーティングは過去二回のベトナム調査でも毎晩おこなっていた。昨年度まで

イン市場周辺まで歩き、簡単な食事をもってその日を終えた。



●二日目(八月二日)・・朝、ホテルフロントに集合し、グループ分けをした。この日は、ホーチミン市の街の雰囲気を知ることにも念頭に置きつつ、事前学習で設定した二つの街路(レタイントン通りと

フアムグーラオ通り)の景観調査をした。調査実施中にスコールに遭遇した。その際に雨宿りをしたベトナム市場で、同じく雨宿りをしていた日本人にインタビュー調査を試みたグループがあったが断られたようであった。「うまくいかない」ことも貴重な体験である。

●三日目(八月二日)・・朝、ホテルフロントに集合し、前日の景観調査を継続した。また、フアムグーラオ通り方面でインタビュー調査を実施した。フアムグーラオ通り周辺は、バックパッカーが集う空間となっている。こうした旅行者へのインタビューは、相対的に円滑に進んだようであった。したがって、翌日以降、インタビュー調査はこのエリアを中心に実施した。夜のミーティングでは学生達の提案により質問項目を見直した。学生達は現場の状況に即して微修正をおこなっていた。

●四日目(八月二日)・・朝、現地発のパッケージツアーを実際に体験(参与観





は、毎日入れ替えるグループごとにその日の調査内容の報告と反省点を提示し合い、情報を共有することを主たる目的としていた。今年度は司会進行を日替わりリーダーに一任した。昨年度までのミーティングでは、参加者全員に平等に発言の機会を提供するという観点から教員がインシアティブをとっていた。しかし今年度は方向転換し、ミーティングに参加学生同士の議論の場として提供した。結果として、発言機会が減った学生が出てしまった反面、前述した調査項目の見直しや調査人数の目標設定など現地における臨機応変かつ主体的な活動を引き出すことができたと考えている。

最後に、滞在中に複数回、学生と一緒に食事をするようにした。担当教員の理念?として「放任主義」を是としており、昨年度まで原則として食事時間には学生と別行動をとっていた。はじめての異国の地において、学生達だけで食事をするので主体性やコミュニケーション





海外フィールドワーク

< <http://www.asia-u.ac.jp/academics/international/multiplecultures/program/> >

能力が身につく可能性に期待して、そうした方針を採用していた。しかし、食事の時間を使って何らかのアドバイスをするなどで現地調査の質の向上が期待できるとの考えから、今年度は方針転換した。この点について、目に見える結果が出たのかは心許ない部分もある。

おわりに…学生の視点

最後になったが、参加した学生がフィールドで何を感じとったのか。参加者の八名の声を紹介したい。参加学生の声は、以下の大学ホームページに掲載されている。是非ともそちらへアクセスして閲覧してほしい。掲載データ（本文・写真）は、ベトナムから帰国後すぐに提出してもらっているため、現地からの学生の息づかいが伝わるはずである。



最後（の最後）に、前期初回授業で配布するレジュメに必ず以下のことを明記している。「本科目で」最も大事なことは、全員が無事に帰国すること（「」は補足）。引率教員の望むことは、この一言に尽きる。海外体験によって学生達が得られるコト／モノも多岐にわたるかもしれないが、それも参加者全員が無事に帰国できてこそである。今回、体調不良を訴えた学生が一日だけ調査を休んだが、全員が無事に帰国できた。海外体験が海外「大変」にならないように注意を払っているつもりであるが、今後も安全管理に留意しつつ、かつ「過保護」にならないような場（フィールド）を提供してゆきたいと考えている。

（本文中の写真は、最初の三枚および最後の一枚を除き本調査に参加した学生のひとり、多文化コミュニケーション学科三年坂根眞夕氏提供）

体験で学ぶ 地球環境論

中野達司

外来生物駆除 於井の頭池

「昨年度開講の当科目では「体験」に該当することとして「富士山清掃」を実習として組み込み、富士山麓でのゴミ処理活動を実施している。今年度も去る十一月二三日に実施し、八九名の学生が静岡県側の富士市大淵地区（標高土一四〇〇m）で好天の下、NPO法人「富士山クラブ」の活動に参加するという形で、野口健客員教授と共にゴミ処理を行なった（写真②）。また、昨年度からは「外来生物駆除」を実習に加え、井の頭池（武蔵野市、井の頭公園内）で外来種の駆除活動を行なうこととなり、昨年度は七月に、今年度は一〇月に実施した。（当科目は昨年度までは前期、今年度は後期に配当。）

井の頭池は数々の外来種（ブルーギルなどの魚類やアメリカザリガニといった甲殻類ほか）が繁殖し、在来種の存続を危うくし、本来の生態系を脅かすという、由々しき状態にある。「井の頭かんさつ会」（以下「かんさつ会」と記





5



6

す。)などの心ある方々が外来種を駆除する活動を行ってきているが、同会の活動に参加させていたく形で当科目の実習は行なわれた。池沼の外来種駆除には「かいぼり（掻い掘り）」が有効と思われるが、井の頭池でも過去二回実施され、とりわけ昨冬実施された「かいぼり」の結果、外来魚の中でも特に有害なブラックバスは根絶された模様であり、ブルーギルも減少しているようである。一方、在来生物は増加傾向にあるのではないかということであり、そのような状況下で、今年度の実習は行なわれた。

受講者は三つのグループに分かれ一〇月一日、八日、



3



4

一五日（何れも土曜日で、各々曇天、雨天、晴天であった）の「かんさつ会」の活動に各グループが一回参加した。天候の違いはあったが各回基本的に同じメニューをこなした。学生は一〇時に現地

集合し、「かんさつ会」の用具置き場で同会の方々と顔合わせ（写真3）。池の中に入って作業する者（各回四名〜六名）はウェラーという足先から胸までの繋ぎ型防水装備に身を固め（写真4）、

活動現場に向かう。池の東端にある「ひょうたん橋」上を拠点とし、活動開始（写真1、写真5、写真6）。



7



8



9



10

ウェラーを着た学生が「かんさつ会」の方と共に水中に仕掛けてあった網や籠を引き上げる（写真7、写真8、写真9）。また岸からも四手網などを池に入れて「操業」する（写真10）。網などにかかった獲物は岸にいる者が「かんさつ会」の方の指導に従って分類をし、種ごとに集め（時に種を間違え、同会の方に

修正されることもあり）（写真11、写真12）、そして個体数をカウント（写真13）。アメリカザリガニ、ナマズ（写真14）以外は学生にとっては殆ど緑のなかつた種ばかりだった



14



11



12



13

の学生がその日初めて参加したとは知らず、質問する親子連れなどいたようですが、どんな名解説をしたかは知らない（写真18）。

池に入って作業した者、岸で分類や集



18

計に動しんだ者、ひたすら「魚に触らない」ようにしていた者など、様々ではあったが、いつの間にか二時間が経過し、空腹ともなつたところで活動終了。

開始時よりも人出が増え露店などで賑わ



19

う公園内を、リヤカーを先頭に用具置き場に移動し（写真19）、捕獲した外来生物を「埋葬」の後、降雨の日以外は参加者全員の写真撮影（写真21、写真22）をして解散。一〇月八日は開始時には小雨



20



15

と思われるが、「かんさつ会」の方に捕獲物の生物学的な説明などもしていただく（写真



16

15、写真16）。最終的に在来種は池に返され（写真17）、外来種は処分。



17

公園の中でのこととして、人の往来もあり、中には興味津々で立ち止まり、本学

(掲載写真(番号1、22)のうち、2は布施秀樹亜細亜大学広報課長撮影、21は田中利秋「井の頭かんさつ会」代表撮影、残りは全て筆者撮影。撮影日は一〇月一日(1、5、7、10、11、17、21)、一〇月八日(6、14、15、19、20)、一〇月五日(3、5、8、9、12、13、16、18、22)、および二月三日(2)である。)

ブルーギル、アメリカザリガニ、シナマエビそれにタイワンシジミは外来種であり、駆除の対象である。ブルーギルは一〇月八日と一五日に一個体ずつ成魚とカウントされ得る個体が捕獲されているが、それ以外は全て稚仔魚である。昨冬の「かいぼり」で完全ではないとはいえ成魚のかなりの部分が駆除されたのではないだろうか。既述のとおりブラックバスは駆逐されているものと思われる。それらの結果か、在来種は増加し、テナガエビの一〇月八日の捕獲数、スジエビの一〇月一五日の捕獲数は各々「かんさつ会」の活動範囲内で過去最高だそうである。



今回の体験で久しぶりに水の生物を素手でさわりました。作業日はあいにくの雨で、池に入る人以外は見学となる時間が多く、残念でした。テナガエビやザリガニは見たことはありませんでしたが、ブルーギルは初めて見ました。稚魚を見る機会はなかなかないため、貴重な体験となりました。今回はブルーギルの稚魚がたくさん獲れましたが、加えてテナガエビもたくさん網にかかっています。つまり外来生物と共に在来生物

であったが、終了時近くには大降りとなり、予定を早めて終了した。(皮肉にも解散してから二時間後には日が差していた。)その日、参加者は傘をさして活動し、気の毒であったが、特にウェラーを着て雨の中、池に入つての作業を厭わなかった者には敬意さえ覚える(写真20、写真6)。

参加者の一人、三年生の門傳英莉華さんは以下のような感想を寄せてくれている。

各回二〇数名から三〇数名の参加で行われた実習であったため、各人の実質的な取り組みには差が大きく、門傳さんの感想にあるとおりであり、来年度以降もこの実習が実施されるのなら、検討課題である。ともあれ一応無事に今年度の実習は終了した。参加した者が、外来生物の問題について少しでも考えるようになってくれたのなら嬉しい限りであるが。

なお、実施日別の種ごとの捕獲数は下の表(データ出所、井の頭かんさつ会)のとおりである。

の生存確認ができたということ、在来生物が増えてきたことはとても喜ばしいことです。これは雨が降っても毎週活動しているボランティアの方々(井の頭かんさつ会)の努力の成果だと思われれます。自分から興味を持たないといふような体験はできないため、今回授業で体験することができてよかったです。

	ブルーギル	モツゴ	ギンブナ	タモロコ	クロダハゼ	ナマズ	テナガエビ	スジエビ	ザリガニ	シナマエビ	タイワンシジミ
10月1日	121	123	1	1	21	0	84	31	13	21	7
10月8日	90	67	2	0	5	0	216	38	12	3	0
10月15日	41	73	1	0	9	1	104	227	19	11	-
合計	252	263	4	1	35	1	404	296	44	35	7



1. ウェルカムボード

多文化コミュニケーション学科としてアジア祭に参加するのは今年で三回目となった。今年のテーマはグローバル時代における食文化の多様性であり、企画名は「のぞきみ！多文化きっちゃん」とした(写真1)。これまでと同様に、学科の地域言語



2. 中国の展示



5. インドネシアの展示

るため、実行委員を前年の冬に募集し、早めに準備に取り掛かった。具体的な課題としては、各ブースの担当者の人員不足や来場者に対する展示品の説明不足、展示品の完成度のばらつき、学年を越えた学生間の連携不足などがあった。二名の実行委員が定期的に会議を開き、連絡係や書記、会計などの役割分担を早期に決定し、テーマもこれまで作製してきた展示品を有効活用できるように食文化にし

学部行事報告

多文化コミュニケーション学科アジア祭参加企画 のぞきみ！多文化きっちゃん

高山陽子



6. 紙粘土工作

たことで、一〇月中旬には作業に入れるようになった。また、九月下旬に三年次の合同専門ゼミにおいて展示全体のテーマの説明と各地域の展示内容の説明を行い、三年生全体に対して作業およびアジア祭当日のブース担当を依頼した。

その後、一〇月中旬以降、週四回程度、六限目(七時五〇分から一九時二〇分)に作業を行った。作業には毎回、二〇名から二〇名程度の学生が集まり、最初は紙粘土などで作る小さな食品を作り(写真6)、アジア祭に近づくにつれて、屋台や祭壇、円卓や噴水、土釜など大掛かりな展示品を作製した(写真7、写真8)。昨年までのアジア祭では、絵具の使用

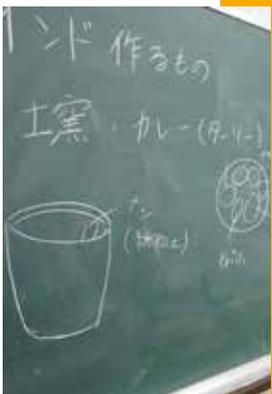


3. 韓国の展示



4. 中南米の展示

(アラビア語、インドネシア語、韓国語、中国語、スペイン語、ヒンディー語)に基づき、各地域の食文化を展示した。
中国は春節の食卓(写真2)、韓国は庶民の食卓(写真3)、中東は「千夜一夜物語」のごちそう、インドは伝統的な台所、中南米は死者の日の食事(写真4)、インドネシアは屋台(写真5)を再現した。
今年度は、過去二年間の課題を解決す



7. 土釜作製中



8. 円卓作製中

が全面的に禁止されていたため、色付けはすべて色スプレーを使用していたが、今年度から絵具使用が解禁され、紙粘土で作った小さな食品類に丁寧に色付けをすることが可能になった。これは展示品のクオリティを上げる点でも喜ばしいことであるが、他方では、展示品の作製



14.ヒンディー語なままで多文化



13.アラビア語なままで多文化



9.色付け作業中

業に別の工程が加わることを意味し、実質的に作業量が増えることになった。久しく絵具を使っていなかった学生たちは、絵具の使用に四苦八苦し(写真9)、紙粘土で作った食品はいつまでたっても白いままであった。

うるものである。筆者も紙粘土の色付け作業を手伝ったが、「これは何だろう?」と思うモノに幾度もぶつかった。明らかに、パン!とか焼き鳥!とわかるものは、安心して色付けしたが、小さな四角のモノとか、丸いモノなど正体不明のモノは「見なかつたこと」にして白いままで放置した。

何とか色塗りを終え、前日は朝から展示品の組立てを行った(写真11)。二月三日の昼過ぎに開場し、三時半ごろ、学長視察団を迎えた。学長視察団を迎えるのは一昨年に続いて、二度目であった(写真12)。学生にとって、学長を筆頭とする二十名近い教職員に対して展示を説明するのは非常に緊張することであるが、また、名譽なことでもある。貴重な経験の一つとなったであろう。

好評だったイベントは「なままで多文化」である。最初に来場者に受付で多文化カードを渡し、名前を記入してもらう。そして、韓国語、アラビア語、ヒンディー語で来場者の名前を書いた(写真13、写真14)。アルファ



11.前日の準備



10.ネギ事件

色塗りにあたって学生は相互に協力しあい、自分が作ったもの以外のモノにも色を塗っていった。この助け合いは思わぬ悲劇を生んだ。ある学生が紙粘土で箸を作ったところ、これをネギだと勘違いした別の学生が緑色に塗ってしまった(写真10)。本当は銀色に塗ってほしかったらしい。アジア祭直前にこの件が発覚し、ちよつとした騒動になった。実は紙粘土の着色に際して、こうした勘違いは起こり



16.展示について説明する学生



15.なままで多文化



12.学長視察団

国際関係学部の「今」がわかる

国際関係学部BLOG 更新中!



亜細亜大学 BLOG 検索

国際関係学部BLOGとは?

グローバル化時代を迎え、国際関係学部の研究・教育活動は日々変化しています。そうした「今」を発信すべく2013年3月に当ブログはスタートしました。



視覚に
うったえたい!

文字情報だけでなく、写真を多く用い、学部の教育活動をイキイキと伝えられるよう留意しています。

タイムリーな発信に
力を入れています!

国内外のフィールドワークやインターンシップ、ゼミ活動など、学生の経験を熱いうちに情報発信することで臨場感を伝えます。

今後にも
ご期待ください!

国際関係学部により関心を持ってもらうため、今後も学部独自の取り組みを紹介していきます。

実は…更新して
いるのは教員です!

学部教員が持ち回りで更新をしています。

ブログへのアクセスはこちらから

Check!

<http://www.asia-u.ac.jp/academics/international/blog/>

ペットを使用するインドネシア語とスペイン語(中南米)、漢字を使用する中国語のブラスではんこを押した。多文化カードを完成させた来場者にお土産として紙粘土製の多文化クッキーや唐辛子、ドクロなどを渡した(写真15)。このイベントだけではなく、学生の丁寧な説明も来場者から高い評価を得た(写真16)。

二〇一四年度にアジア祭に参加したときから、展示品は環境にやさしいもので作ることを心がけてきた。つまり、紙粘土や段ボールなど再利用できるもの、仮に処分しても土にかえるものである(写真17)。アジア諸国に行けば、雑貨類は安く手に入るが、そうしたものはなく、拙くても学生自らが作ったものを展示することにこの企画の意義がある。モノづくりには柔軟な発想が必要である。何を作るか? どうやって作るか? どうやって展示するか? など、ウェブ上を検索しても答えが見つからないものばかりである。手作業を始めたばかりの学生はぎこちなく手を動かしていたが、次第

に刃物などの道具の扱いに慣れてくると、柔軟な姿勢を示すようになっていった。試しにやってみよう、失敗したらやり直せばよいと考えるようになった。こうした学生の発想の変化こそがこの企画の目に見えない最も大きな成果といえる。

近年、どこの大学でも大学祭は「模擬店祭り」と揶揄され、模擬店ばかりが目立つようになった。確かに模擬店を出すのは楽しいかもしれないが、「金儲け」は卒



17.一昨年作製した野菜類



18.また来年…

業してからでもできるはずである。金に換算できない体験が大学生にとって重要である。最後まで学生たちは手作りのプラカードを倉庫にしまうのを嫌がったように、このプラカード一枚にたくさんの思い出が詰まっているのである(写真18)。

執筆者紹介（五十音順）

新井 敬夫（あらいたかお）

国際関係学部国際関係学科・教授。主な研究分野は、発展途上国の経済分析と開発政策。

中野 達司（なかの たつし）

国際関係学部多文化コミュニケーション学科・教授。主な担当科目は、体験で学ぶ地球環境論、中南米の社会と文化。

大塚 直樹（おおつか なおき）

国際関係学部多文化コミュニケーション学科・准教授。主な担当科目は、観光地理総論、フィールドワーク入門。

新妻 仁一（にいつま じんいち）

国際関係学部多文化コミュニケーション学科・教授。主な担当科目は、西アジアの社会と文化、アラビア語。

高山 陽子（たかやま ようこ）

国際関係学部多文化コミュニケーション学科・准教授。主な担当科目は、世界遺産論、テーマパーク論。

榎 KaYa 国際関係・多文化フォトジャーナル vol.04

2017年 3月31日発行
発行：亜細亜大学国際関係研究所
制作：株式会社キンデル

問い合わせ先
亜細亜大学国際関係学部
〒180-8629 東京都武蔵野市境5-24-10
<http://www.asia-u.ac.jp/academics/international/>

本雑誌記事の無断転写を禁じます。
©2017 Faculty of International Relations, Asia University